立体最小限住居 No.32

内部見学不可

写真：西岡潔

戦後の圧倒的な住宅不足のなか、様々な制約のもとで多くの建築家が、極小ながらも新たな時代に相応しい住まいの形を模索した。池辺陽が提示した「立体最小限住居」はその代表的存在。池辺のナンバーシリーズ 32 番が建てられた 1955 年には、広い面積の住宅も設計していたが、音楽と共に暮らす自立した小住宅を、生家の裏庭に建てたいとの若い音楽家からの依頼に対し、池辺は立体最小限住居の手法で応えたのだった。「立体」と名のつくように、その特徴は吹抜のある一室空間のなかで、住まいの機能を最小限の寸法で断面的に分割していくその空間構成にある。2017 年にリノベーションされ、現在は写真スタジオとして活用されているが、池辺の思想を今に伝える貴重な作品である。（髙岡伸一）

英語名：minimum house No.32
所在地：大阪市東住吉区
建設年：1955 年 -